

第7章

目標数値・ 効果目標の設定

第7章 目標数値・効果目標の設定

1. 目標数値・効果目標の設定

施策の達成状況等の計画評価における目標数値を、目標とすべきターゲットごとに設定するとともに、目標数値が達成されることにより期待される効果目標を設定します。

(1) まちなかの求心力向上

まちなかの求心力向上についての目標数値は、玉名駅周辺都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の数を設定します。

玉名駅周辺については既に多くの誘導施設が立地していることから現状と同規模の施設数を維持することで、人口減少下においても魅力ある拠点形成を目指します。

	現状 令和3年 (2021年)時点	目標数値 令和22年 (2040年)時点
目標数値① 玉名駅周辺 都市機能誘導区域に 立地する誘導施設数	36 施設	36 施設

効果目標としては、市民意識調査の「玉名市は全体的に見て暮らしやすいまちだと思いますか」という設問に対して「非常に暮らしやすい」もしくは「暮らしやすい」と回答した人の割合を設定します。

	現状 平成27年 (2015年)時点	目標数値 令和22年 (2040年)時点
効果目標① 玉名市は全体的に 見て暮らしやすいと 思う人の割合	61.4%	70.0%

(2) 利便性の高いエリアへの人口集積

利便性の高いエリアへの人口集積についての目標数値は、居住誘導区域内の人口密度を設定します。

数値としては減少しますが、子育てしやすい環境づくりやまちなかの住環境維持・向上、若者世代が住みたくなる魅力づくりについての施策を推進することで、居住誘導区域内の人口密度を、何も対策を講じなかった際の推計値よりも増加させることを目指します。

	現状 平成 27 年 (2015 年) 時点	推計値※1 令和 22 年 (2040 年) 時点	目標数値※2 令和 22 年 (2040 年) 時点
目標数値② 居住誘導区域内の 人口密度	29.4 人/ha	25.1 人/ha	26.0 人/ha

※1 国立社会保障・人口問題研究所ベースでの人口密度

※2 子育て環境やまちなかにおける住環境向上等によって、年間 20 人の誘導を想定

効果目標としては、市民意識調査の「これからも玉名市に住み続けたいと思いますか」という設問に対して「ずっと住み続けたい」もしくは「できれば住み続けたい」と回答した人の割合を設定します。

	現状 平成 27 年 (2015 年) 時点	目標数値 令和 22 年 (2040 年) 時点
効果目標② これからも玉名市に 住み続けたいと 思う人の割合	73.3%	80.0%

(3) 拠点間のネットワーク確保

拠点間のネットワーク確保についての目標数値は、路線バス及び乗合タクシーの利用者数を設定します。

路線バス及び乗合タクシーの利用者数は人口減少によって減少する見込みですが、玉名市全体の人口割合に対する利用割合の維持を目指します。

	現状 平成 27 年 (2015 年) 時点	目標数値 令和 22 年 (2040 年) 時点
目標数値③		
路線バス及び 乗合タクシーの 利用者数	817,085 人	613,800 人

効果目標としては、路線バス及び乗合タクシーに対する支出額を設定します。

路線バスや乗合タクシーの利用者数は減少する見込みですが、利用者ニーズに拠点間のネットワーク確保に努めます。

	現状 平成 27 年 (2015 年) 時点	目標数値 令和 22 年 (2040 年) 時点
効果目標③		
路線バス及び 乗合タクシーに 対する支出額	94,886 千円	101,700 千円

2. 進捗管理の方針

立地適正化計画を策定した場合、概ね5年ごとに計画に記載された施策等の実施状況について調査、分析及び評価を行い、立地適正化計画の進捗状況や妥当性等を精査、検証することが望ましいとされています。本市においても概ね5年ごとに計画に記載された施策等の実施状況について評価・分析を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

評価にあたっては、目標数値の達成状況とあわせ、第6章で設定したそれぞれの誘導施策の実施・進捗状況についても関係部門と連携・調整を図り把握し、施策の見直しや新たな施策の検討を行い、目標数値の達成状況を評価します。

なお、誘導施策については、3年間の状況を踏まえたところで、最初の評価時点までにその評価手法を検討します。

実施状況については、自己評価を行うとともに、専門性・中立性を有する玉名市都市計画審議会における第三者評価を行い、評価結果を踏まえ、必要に応じて立地適正化計画の見直しを行います。

本計画でのPDCAサイクルの取り組み

